

平成 29 年度
伊勢原市市民協働事業報告書

比々多地区周辺における農・文化資源を活用した
地域活性化プログラム開発

伊勢原市都市部都市政策課

東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科 町田 怜子 助教

平成 30 年 3 月

1 市民協働事業

(1)伊勢原市提案型協働事業制度の概要

伊勢原市の提案型協働事業提案制度は、市民のみなさんが感じていることや気づいたことについて、市に提案してもらい、または、市が実施している事業やこれから実施する事業のうち、市から市民活動団体へ提案して協働を呼びかけるなど、市民の皆さんと市がそれぞれ持っている力を出し合いながら、一緒に取り組んでいこうというものです。

①提案型協働事業の対象

▶ 対象となる団体等

特定非営利活動法人(NPO法人)

市民活動団体・ボランティア団体

地域コミュニティ組織

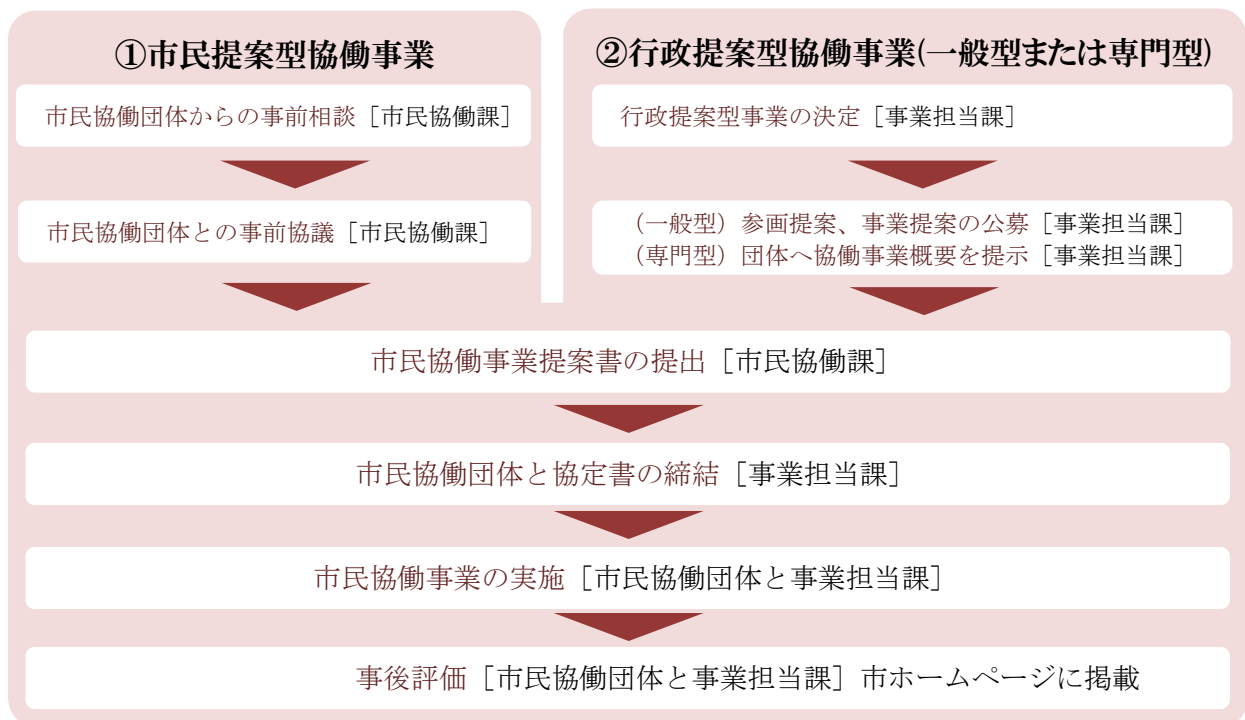
その他の市民活動団体等
(教育・研究機関、公益団体、民間の事業者など)

▶ 対象となる事業

- ①市民が受益者となる公益的な事業
- ②市民活動団体の先駆性、専門性等の特性を活かした事業
- ③市民活動団体と行政の役割分担が明確かつ妥当であり、協働で実施することにより相乗効果が期待できる事業
- ④原則として、事業の実施年度において、市の他の制度による補助金等の対象になっていないもの

②提案型協働事業の進め方

伊勢原市の提案型協働事業提案制度は、①市民提案型協働事業と②行政提案型協働事業(一般型または専門型)があります。



(2) 協働事業について

①協働事業の目的

本協働事業は、比々多地区の美しい農村景観、由緒ある文化的資源を活用し、比々多地区の地域住民、多様な主体の交流を促進する地域活性化プログラム開発とその基礎的研究を行うことを目的とします。

②協働事業の区分及び主体

提案の区分：行政提案型協働事業（専門型）

事業の主体：伊勢原市都市部都市政策課

学校法人東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科

地域デザイン学研究室 町田玲子 助教

協定の締結：平成 29 年 6 月 28 日

③協働事業のテーマ

『比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発』

【背景】

本市の西部に位置する比々多地域は、住宅地・工業地・田園地・山地と多様な顔を持つ地域であり、比較的温暖で豊かな自然に恵まれた環境を生かし、みかん・なしなどの果樹栽培や稲作といった農業も盛んです。

都心部のベッドタウンとして発展してきた伊勢原市において、貴重な里地里山の風景が広がっている地域です。

歴史的にも、古くから東西交通の重要な道であった東海道の脇街道として機能していた矢倉沢往還道や、また、三嶋神社、勝興寺、聖峰不動尊などを始めとした多くの寺社仏閣があり、古くから集落を形成し、人々が豊かな自然や環境と調和しながら生活をしてきた地域であることが分かります。

また、地域では、拠点やランドマークでのお祭り活動や清掃活動、植樹活動などを通じて地域コミュニティの活性化を図っています

一方で、現在は、人口減少・少子高齢社会の進展、都市化の進展により、農家の高齢化や後継者不足などに起因する農地や山林の荒廃など様々な問題を抱えています。

こうした問題に対処する方策の一つとして、地域に存在する様々な資源を活用し、都市部や他地区の住民、学生などの多様な主体との交流を通じて、継続的に地域を活性化していくことが考えられます。

このような中、東京農業大学では、自然環境の恵みを持続利用し、多様な主体との交流や連携を通じて、文化、伝統技術、知恵を継承した、人と自然が共生する豊かな暮らしと地域らしい生業を導く「地域デザイン」の探究及びその人材の育成を目的とする地域創成科学科を平成 29 年度に創設しました。

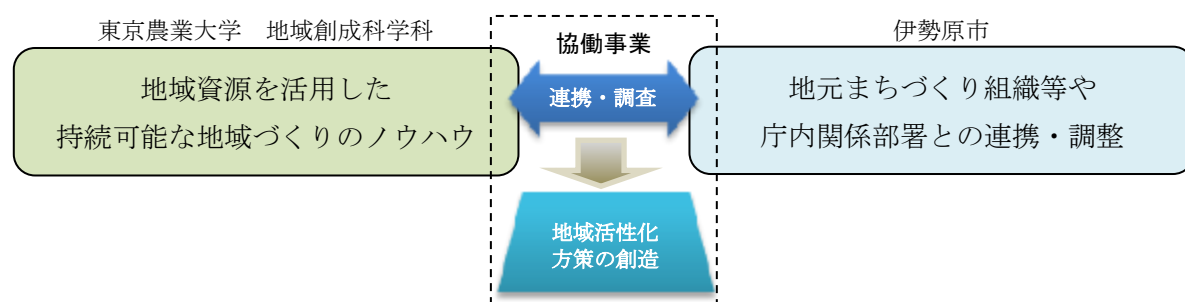
また、伊勢原市比々多地区には、東京農業大学の伊勢原農場があり、平成 23 年度から園芸作物の野菜・造園・農業機械の各部門、平成 24 年度からは園芸作物の果樹・

花卉部門も厚木キャンパスから移転し、各種の実習教育と研究がここで進められています。

また、東京農業大学では、平塚市の吉沢地区において、地元協議会と共に産学官民の連携による景観まちづくりを実施しています。

このため、本協働事業により、大学の先駆的な取組により積み重ねられたノウハウを地域づくりに生かすとともに、本事業を通じて学生（大学）と地域、行政による新たな交流が生まれ、農資源、文化資源、歴史資源といった地域らしさを生かした新たな地域活性化の方策の創造が期待されます。

比々多地域における協働事業のイメージ



(3) 協働事業の概要

本協働事業は、市と東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科との協働により、平成 29 年度は次の事業を実施しました。なお、本協働事業は継続的な取組が必要なことから、地域の御理解と御協力をいただきながら取組を進めていきます。

①平成 29 年度の取組

ア 善波地区、坪ノ内地区、栗原地区の地域資源の調査

各自治会及び地元まちづくり組織の協力を得て、地域と大学、市でまち歩き調査を実施しました。

イ 幼児を対象とした農体験プログラムの試行

成城幼稚園の幼稚園教諭と連携して、伊勢原市にある東京農業大学との農場にて、幼児を対象にした環境教育プログラムを実施しました。

ウ 地元まちづくり組織との意見交換

伊勢原市西部地区土地利用研究会の会議に出席し、他市の取組事例などの情報提供とともに、地区の土地利用及び地域の活性化に関する意見交換を行いました。

エ 協働事業成果のまとめ

協働事業の成果を取りまとめ、さらなる事業展開の可能性などを検討していきます。

②平成 29 年度の役割分担と実施の効果

本協働事業は、次の役割分担のもとに事業を実施します。

東京農業大学

- ・ 現地調査の企画立案
- ・ 調査結果の分析
- ・ 農体験プログラムの試行

伊勢原市

- ・ 必要な資料や情報の提供
- ・ 実態調査及び地域まちづくり組織との連携
- ・ 調査研究に係る事務的経費の負担

協働の効果

- ◇ 専門的な知識や人材を有する大学との協働は、蓄積された知見や研究成果などから今後のまちづくりへの展開が期待されます。
- ◇ 学生と地域の新たな交流が生まれ、地域の活性化につながることも期待されます。

③協働事業の今後のスケジュール

本協働事業は、基礎的な調査からはじめ、多様な主体との交流によるまちづくり活動の実践等まで複数年かけて行っていく計画です。

事業展開（案）

比々多地区周辺における農・文化資源を活用した地域活性化プログラム開発

1年目（平成29年度）

- ・地域資源（農資源、文化資源、自然資源、）の調査
- ・成城幼稚園、伊勢原農場との協働による農体験プログラムの試行
- ・地元まちづくり組織との意見交換

2年目（平成30年度）（案）

- ・地域資源（農資源、文化資源、自然資源、）の調査（継続）
- ・地域資源をつなぐ魅力ある景観整備（散策路等）
- ・地元まちづくり組織と学生等の多様な主体との協働によるまちづくり活動の試行

3年目（平成31年度）（案）

- ・地元まちづくり組織と学生等の多様な主体との協働によるまちづくり活動の実践
- ・地域活性化プログラム集づくり、今後の展開についての提案

2 協働事業の取組内容

(1) 善波地区、坪ノ内地区、栗原地区の地域資源の調査

①善波地区、栗原地区、坪ノ内地区の概要

坪ノ内地区の一部を除き、3地域とも市街化調整区域となっております。また、3地域を通る国道246号バイパスが計画されており、善波地区内には、国道246号現道との交差点である（仮称）伊勢原西インターチェンジがとして整備される予定となっております。また、栗原地区には、小田急線鶴巻温泉駅から約2kmのところ、県立いせはら塔の山緑地公園が開園しています。【図1】

また、市の土地利用の基本的な方針である都市マスタープランにおいて、3地域の多くが「やま」「おか」の地域になっています。【図2】

「やま」の地域では、自然や歴史・文化など、先人から受け継いだ地域資源の保全と活用により、個性と魅力ある景観まちづくりの推進を方針の一つとしています。

「おか」の地域では、棚田や四季の花、景観作物など、農地の新たな魅力と地域資源の活用による個性と魅力ある景観まちづくりの推進を方針の一つとしています。

図1 広域交通と県立公園

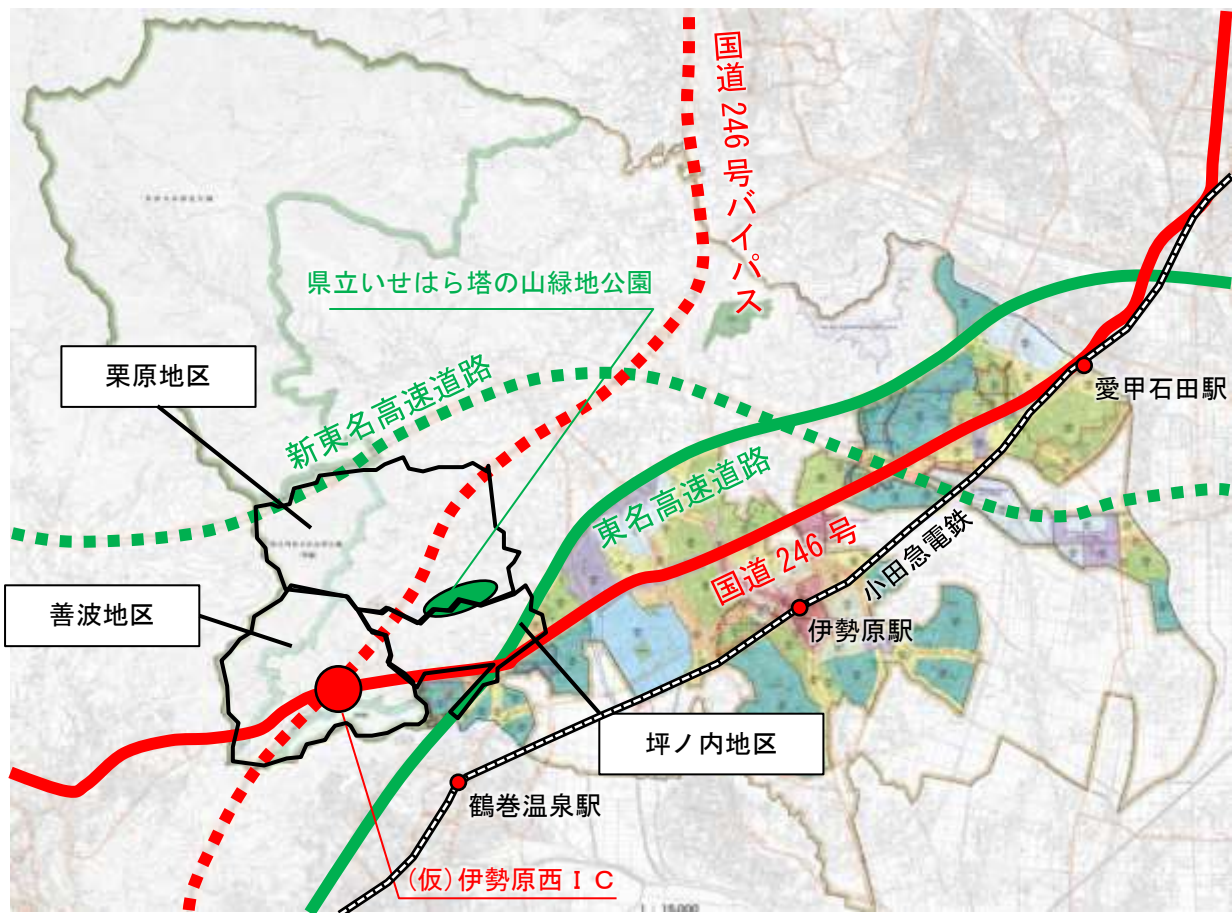
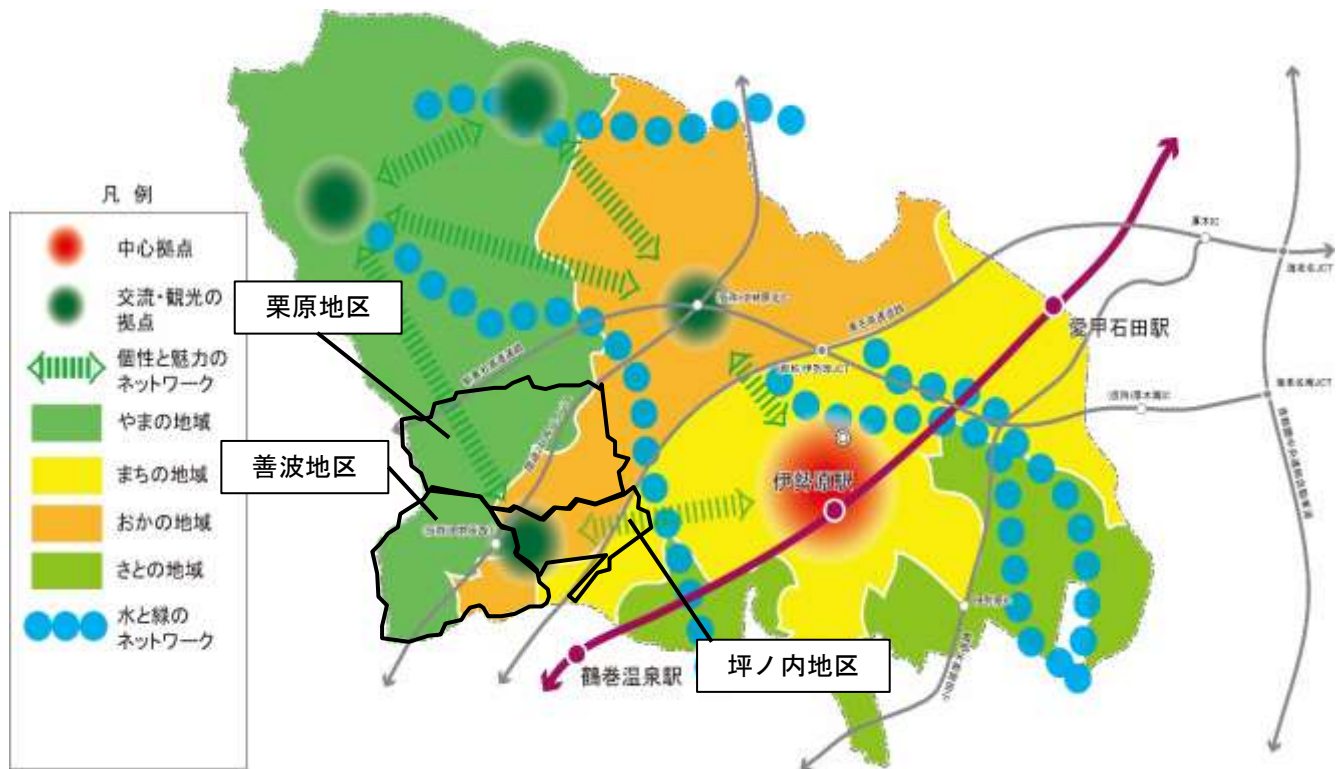


図2 伊勢原市都市マスタープラン



②地域資源の調査（結果）

ア 調査実施日

以下の日時に、地域資源を調査しました。

- i 平成29年9月21日（木）午前10時～正午【図3】
3地区全体の地域資源確認
- ii 平成30年2月9日（金）午後2時～午後5時【図4】
伊勢原市西部土地利用研究会 坪ノ内地区会議（周辺まち歩き）
- iii 平成30年3月13日（火）午前10時30分～午前11時30分
笠谷戸の休耕地の現地確認

＊地区ごとの調査結果を2ページあとから記載しています

善波・栗原・坪ノ内地区の地域資源マップ

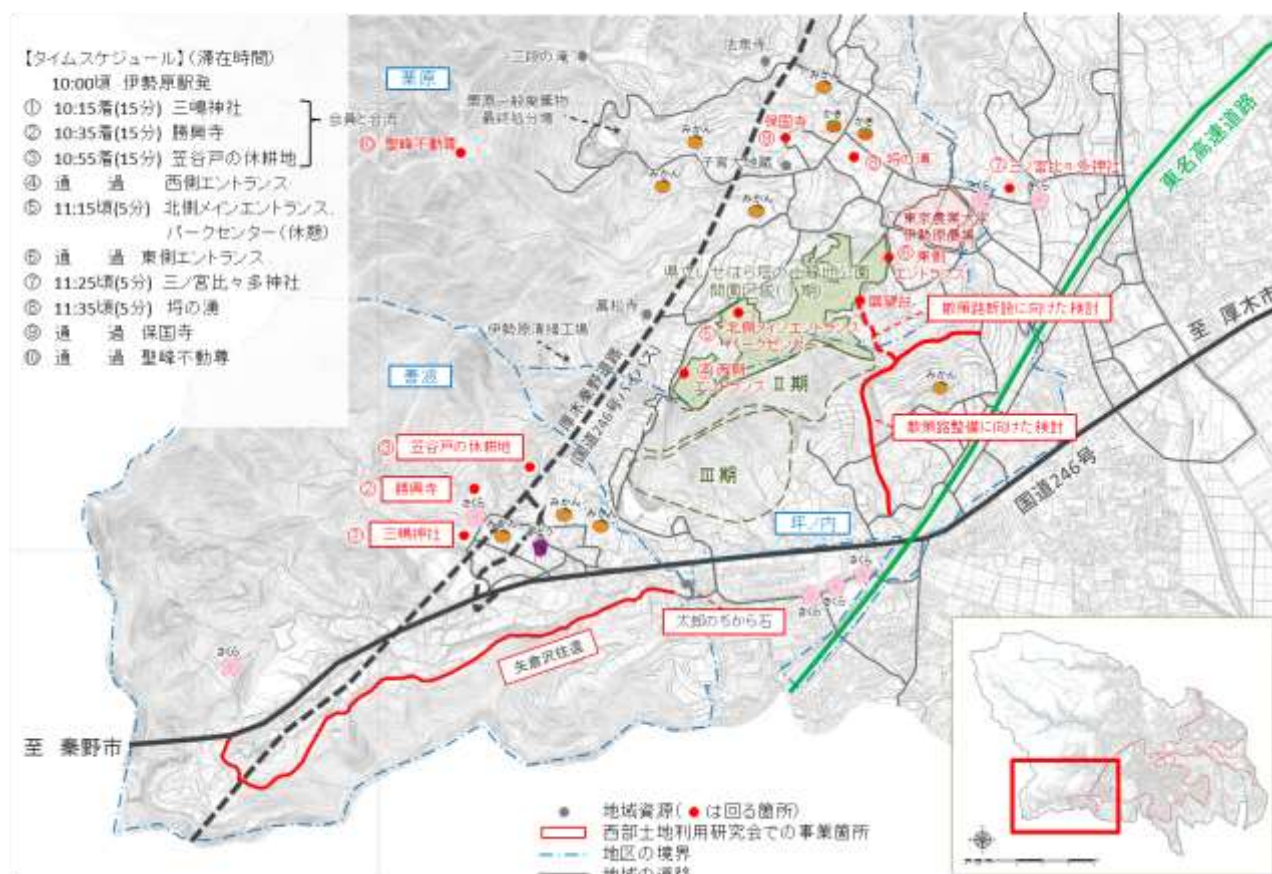


図3 スケジュール・調査箇所

塔の山公園周辺まちあるきマップ 2/9 (金)



図4 スケジュール・調査箇所



笠谷戸休耕地の現地調査 3/13

イ 調査結果の概要

i 善波地区

三嶋神社、勝興寺、笠谷戸地区の休耕地周辺について、現地を調査しました。

三嶋神社は、地域でお祭りをを行うなど地域コミュニティの拠点となる場所であり、地元まちづくり組織によって、しだれ桜の植樹やベンチの整備などによって、拠点の魅力向上に努めています。神社の敷地はきれいに整備されており、地域のランドマークとして機能しています。また、勝興寺へとつながる脇道には、カタクリも植えられていましたが、うまく根付いていないようでありました。

笠谷戸地区の休耕地周辺は、南東方向に向いた斜面及び段々畑となっており、みかんなどの栽培に活用されています。また、休耕地について、地元の方が管理を任されており、みかんではなく、景観を生かした花木を植えられないか検討していました。246 バイパスの敷地がすぐそばを通り、道路後の整備後には、道路からの眺望のポイントになるものと考えられます。湘南江ノ島方面の眺望もよく、景観を生かした活用方策が望まれると考えられます。



三嶋神社



笠谷戸地区



現地調査 3/13

ii 栗原地区

三ノ宮比々多神社、法泉寺、保国寺、埴の湧、県立いせはら塔の山公園エントランス、について、現地を調査しました。

三ノ宮比々多神社は、1年を通じてお祭り等を多数開催し、地域の拠点となる神社で、駐車場も多く、ウォーキングイベントなどで集合解散場所ともなっています。大山～鶴巻温泉駅行きのバスの実証運行が実施され、今後の観光客の増加に期待されます。（実証運行は、既に終了）

埴の湧は、温泉を掘ろうとして湧き水が出たという泉で、個人が管理しており、タンクを持って行って汲むことが出来ます。

同公園はエントランスが3つありますが、北口のエントランスには、駐車場や管理棟が整備されており、多くの方が集まれる拠点施設となっています。ここを拠点に、インストラクターによる野鳥探察などのイベントも行われています。

また、同公園には、晴れていればスカイツリーや三浦半島なども望める開放感のある広場があり、アクセスの改善などの整備や工夫により、多くの方が集まる場所になると考えられます。



三ノ宮比々多神社



県立公園北口エントランス



県立公園 展望広場

iii 坪ノ内地区

坪ノ内地域の市道や農道を歩き、地域に点在する歴史的な資源や道中から確認出来る眺望などの景観資源を確認しました。

江戸時代の日本画家である近藤如水の墓、秋に地域のお祭りなどを行う八幡神社、刀が出土した古墳などの歴史資源の他、善波方面が見渡せる、休憩所に適した丘や、少し整備をすることで更に歩きやすくなるヒューマンスケールの山道、その間から見える湘南方面の景色、ミカン畑の農風景などを確認しました。

里地里山の良さを随所に感じられ、地元の方が気づいていない魅力を持っており、少し手を加えることでもっと素晴らしい地域になると考えられます。

調査にあたっては、景観診断書を作成し、景観を構成する要素や、景観を良くするために直したいところなどを現場で確認しながら整理していききました。

現地調査後、地域の皆さんと会議を行い、意見交換を行いました。(後述)



近藤如水の墓



八幡神社



見晴らしの良い丘



狭い山道

← 景観診断書

(2) 幼児を対象とした農体験プログラムの試行

①成城幼稚園の幼児による伊勢原市での農体験の実施

日 時：平成29年6月30日（木）午前10時～正午

場 所：東京農業大学 伊勢原農場

目 的：子どもやファミリー層向けへの地域資源を活用した農体験の提供

参加者：成城幼稚園の園児

内 容：野菜や果樹栽培を活用した環境教育型農体験プログラム

＊実施にあたり、市では広報【図5】を担当し、プログラムの進行は東京農業大学及び幼稚園教諭とで行いました。



五感の触覚でコキアを楽しむ様子



ブドウの栽培方法を学ぶ



ブルーベリーの栽培方法を学び試食



ミニトマトの品種による違いを学ぶ

②伊勢原農場で行う意義・効果

今回は、私立成城幼稚園の幼児に協力いただき、事業を実施しました。普段は世田谷など都市部で暮らす幼児からは、「伊勢原農場での味は忘れないよ」と感想を述べるなど、伊勢原との関わりを認識するなどの効果も見られました。

今後は、新東名高速道路の整備などにより、さらに多くの都市住民が比々多地区を訪れることが想定され、農を主体とした着地型観光プログラムなどの更なる充実や展開も考えられます。

(3) 地元まちづくり組織との意見交換

地元まちづくり組織である西部地区土地利用研究会の地区別会議にて、意見交換を行いました。

①善波地区

ア 平成 29 年 9 月 27 日（水）

花木の植樹に当たり、地域の状況や課題について

イ 平成 30 年 2 月 2 日（金）

地域の特徴や季節ごとの魅力を引き出す具体のアイディアについて

②栗原地区

ア 平成 29 年 11 月 14 日（火）

塔の山緑地公園の活性化や来園者を増やすために

イ 平成 30 年 2 月 13 日（火）

県と地域の情報共有の機会を得るなど地域と一緒に取り組む公園づくりの在り方について

③坪ノ内地区

ア 平成 29 年 11 月 21 日（火）

散策路整備に当たり、現地の状況や課題について

イ 平成 30 年 2 月 9 日（金）＊まち歩き調査後に、意見交換を実施

専門家である東京農業大学の教員と現地を確認し、地域の良さや伊勢原らしい景観を維持するための今後の取り組みやアイディアについて意見を出し合いました。

意見交換の結果概要は、次のとおりです。

i 坪ノ内地区にどんな人に来て欲しいか？【ターゲット】

＊伊勢原市の新興住宅地に住む高齢者

＊里山に散歩に来る住民

ii 主な意見や課題

課題	対策
整備されていないので塔の山公園につづく散策路に入れない	・ 夏 3 回程の草刈りなど管理をし、歩くことができる道を整備する ・ まず重点ポイントを明らかにし、無理のない範囲で整備していく ・ まずは、地元住民の整備しやすいところから整備していく
入って良い場所、入り口、道がわかりにくい	・ 案内板を作る ・ 散策路ができたことを広報に掲載し情報発信を行う。

散策路のルートが分かりにくい	・ 道幅を決めて、ルートを整備する ・ 重点ポイントを整備し、それをつなぐラインを整備する
維持管理の体制づくりが難しい	・ まずは整備し、整備後活動に参加してくれる人を得られるようなイベントなどを開催し、坪ノ内地区を知ってもらう ・ イベントも整備イベントなどで楽しめる内容にする ・ 農大生の実習の場として活用してもらう ・ 整備・活動ができるところから少しずつ、楽しんで行く（活動後にバーベキューをするなど）

iii 今後の活動について

- ・ 夏の一番草が繁茂するときにもう一度ワークショップを行い、重点整備ポイントを決める
- ・ 草刈りなどの整備活動を一緒にやってみる（学生の実習にしてもよし）
- ・ 他の事例（平塚吉沢地区）などを視察に行き、管理のイメージをする
- ・ 点を整備し、線につないでいくような整備につなげていく



打合せの様子

(4) 協働事業成果のまとめ

前述のとおり、本協働事業は、基礎的な調査からはじめ、多様な主体との交流によるまちづくり活動の実践等まで複数年かけて行っていく計画であり、本年度は、善波地域、栗原地域、坪ノ内地域の地域資源の調査、幼児を対象にした環境教育型農体験プログラム、地元まちづくり組織との意見交換などを行いました。

次年度以降は、今年度の現地調査で確認出来た良好な景観資源を生かした、試験的な地域活性化に向けた取組を模索していきます。